コミュニティおがわ

発　行	緒川地区コミュニティ推進協議会　☎83-3006
編　集	総務・広報部 機関紙編集委員会
発行日	2025年1月1日 第213号

新しき
年の初めの
初春の
今日降る雪の
いやしけ吉事（よごと）　（大伴家持 歌）

泉書道会　浦山洸道さん

年頭のごあいさつ

緒川地区コミュニティ推進協議会会長　内藤　明綱

明けましておめでとうございます。会員の皆様には、心よりお喜び申し上げます。

国内では衆議院議員選挙が行われ、与党が過半数割れをし、今後の国政がどのように運営されるか気になります。また、日本各地で頻繁に起きている地震や大雨による災害被害も大変なことになっています。過日、防災講演会を開催したところ、多数の方が参加くださいました。日本各地の災害を自分ごととして認識していただき、大変うれしく思っています。

国外では、アメリカ大統領にトランプ氏が返り咲いたこと、ロシアとウクライナとの戦争が2年以上続いていること、パレスチナでの戦争が激化していること等、世界中が大変な状況になっています。

さて、緒川コミュニティに目を向けると、コロナ問題以後は落ち着きを取り戻し、活動そのものは順調に進んでいるように見えます。しかし、心配していることが一つあります。ここ数年コミュニティ会員数が減少しつつあることです。高齢者が増え、会員を続ける事が難しいと申し出る方が多くなっています。若い方の入会はほとんどありません。今後、この問題をどのようにとらえ、取り組んでいくかが大きなポイントになります。コミュニティ行事に多くの方が参加され、意見交換していただくことが大切です。

最後になりましたが、皆様の益々のご健康とご多幸を祈念し、年頭のご挨拶といたします。

防災訓練

9月14日に行われた防災訓練は、残暑が厳しく暑い日になりました。そんな中たくさんの方の参加があったのも、能登半島地震、能登半島豪雨と度重なる災害があちこちで起こっているからではないでしょうか。

さて、今年度は騒音計を使って「声出し訓練」を取り入れました。能登でも近所へ声をかけながら逃げたという話を何度も聞きました。実際に、声を出してみると「意外と大きな声って出せないね」「普段から声を出す練習が必要だ」などの感想をいただきました。

他にもAED訓練、炊き出し訓練等実施しました。

防災の一歩は近所づきあいです。日ごろからのあいさつをよろしくお願いします。

防犯・防災部部長　石川　真由美

緒川地区みんなで防災

10月22日、防災教育アドバイザーの近藤ひろ子先生を講師に招き、防災講演会を開催しました。

最初に伊勢湾台風で親友との別れがあったことを語られ、当時小学3年生の私は全校児童で寄付金をおくった記憶を思い出しました。

講演会では、台風・風水害の備えとして、東浦町防災マップを十分活用することで洪水や液状化対策ができることや、いざ災害が起きたときに地域のみんなで支え合い、声かけなど自ら動くことの必要性を学ぶことができました。防災は命を守る、みんなで生き延びること。

講演会には、コミュニティ関係者、一般参加者など70名以上の方が参加され、講師の話に耳を傾けていました。ご多忙のところ、ありがとうございました。

防犯・防災部副部長　水野　行文

緒川の安全・安心を守る

しっかりと防犯対策を

防犯・防災部　長坂　傑

私がコミュニティ防犯部員として活動を始めてから6年が過ぎようとしています。青パト緒川区内パトロール、3地区夜間パトロールそしてイオン東浦店舗内パトロールとそれぞれ活動を行ってきましたが、活動中、事故・犯罪等は起きておりません。

防犯パトロール活動は事故・犯罪等の被害防止ですが、パトロールによる犯罪防止抑止機能は防犯のほんの一部の対策でしかありません。防犯意識を高めて常にしっかりと防犯対策をしていただくことが必要ではないでしょうか。

防犯部員は年々高齢化しており、若い方の部員を求めております。皆さんと協力し合って犯罪の起きにくい環境に、そして地域にしていきましょう。

チームカメレオン活動

チームカメレオン　林　泰司

私たち「チームカメレオン」は、「地域で児童を見守る」というスローガンのもと、活動しています。今年度は、①児童下校時の立哨活動、②通学路の危険か所、要注意か所の点検活動、③「こども110番の家」のサポートを方針として掲げ、メンバー19人で活動しています。

具体的には、①月2回の低学年児童の下校時の立哨・見守り活動、②主な通学路4ルートの異常か所等の点検、区への報告、③「こども110番の家」の備品点検と更新。

皆さんへお願いです。立哨活動には人数が必要です。活動を持続的に維持するために、より多くの方にサポートをお願いしたいです。我々の活動に少しでも賛同いただける方は、ぜひ一緒に「地域で児童を見守る」の一翼を担っていただきたいと思います。

下校サポーター スクールガード

小学１年生の下校時に寄り添っています。子どもたちの登下校の時に、自宅の前で、また散歩しながら見守っていただけるとありがたいです。「おはよう」「おかえり」の一言を子どもたちにお願いします。

'24おがわコミュニティまつり

11月3日（日）

文化展・ふれあい広場・バザーなど いずれのコーナーも大盛況

前日の雨とうって変わってコミュニティまつりの当日は上天気で、たくさんの方々で賑わいました。

総務・広報部担当の抽選会は、2台のガラガラ抽選機の1台の不具合で1台のみで行うことになりましたが、ボランティアの中学生の明るい対応もあって、トラブルもなく気持ちよく進行することができました。また、ふれあい部のバザー、体育部のゲーム、文化部の展示等どれもそれぞれの工夫があって、参加者がいろいろ楽しめるまつりになっていたと思います。

さて、今年は初めての試みで、抽選券と50円の金券の配布が行われましたが、いかがでしたでしょうか。皆さんがより一層楽しめるように、ご意見をいただき、来年度に活かしていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

総務・広報部副部長　前田 邦子

文化展

折り紙コーナー

盛りあげ隊
ツイスターゲーム

児童館まつり

射的ゲーム

やきとり・だんごコーナー

やきとり・だんごコーナー

各種団体
活動紹介コーナー

抽選会

児童館まつり

みかんのつかみどり

紙ヒコーキコーナー

紙ヒコーキコーナー

おがわっ子広場

最高に楽しいフェスティバル

4年　日髙 結咲

私は、今回のフェスティバルで「見て作って学ぶ！プラネタリウムの世界へ」のコーナーをたん当しました。じゅんびでは、説明を考えたり、ダンボールを切ってプラネタリウムのドームを作ったり、集まって話し合ったりしました。説明は、星や月のことを教科書や図かんを使ってスライドショーにしました。プラネタリウムのドームは、ダンボールを切って、ドームの形にするだけではなく光もれをふせいだり、高さを考えたりしました。これにはコーナーのみんなの協力が必要でした。しかし、一人一人思っていることがちがったので、話し合いをするのが大変でした。それでも、みんなの協力で、前日までにじゅんびを終わらせることができました。

本番では、たくさんのお客さんが来てくれました。私は、お客さんが笑顔で帰ってくれるように、せいいっぱいがんばりました。コーナーのみんなも、大変なことがあったら助け合うなどをして、少しでも他の人の役に立てるようがんばってくれました。大人の人や親子で来てくれた人もたくさんいてうれしかったです。

そして、片付けではダンボールでできた大きなドームを片付けるのが大変でした。私は、片付けもみんなの協力が必要だということが分かりました。

このフェスティバルのじゅんび、本番、片付けを通して「仲間と協力する楽しさ」を学ぶ機会になりました。今回のフェスティバルはみんなで協力した最高に楽しいフェスティバルになりました。

「モルック」は面白い‼

10月20日、子ども・親子・大人のチーム88名の老若男女が参集、モルック大会を行いました。

モルックとは、木の棒モルックを下から投げて、12本の木のピン（スキットル）を倒して得点を競う競技です。得点がピッタリ50点になったチームが勝ち。3人1チームで3回戦を戦い、1位10ポイント、2位5ポイント、3位0ポイントで総ポイント数で順位を決めました。

50点ピッタリを求められるゲームなので、慎重かつ大胆な判断、投球が必要です。ゲーム中はあちらこちらから歓声「50点獲得！」や「ため息「50点越え？」が聞こえてきました。

初めての行事なので運営等に反省点もありますが、参加者に笑顔をもたらすことができました。

体育部長　林 泰司

編集後記

朝起きてカーテンを開ける。庭をみると、枝で雀が2、3羽こちらの様子を伺っている。すぐに飛び立ち、しばらくすると数羽の仲間を連れて戻ってくる。エサが貰えるので呼びに行ったのだ。

エサを与えると、枝からすぐに食べにくる雀、枝に止まったままの雀、エサをくわえて飛んでいく雀、分け与える雀。

初めのころは物音ひとつでも逃げていったが、今はずいぶんと慣れてきた。仲間以外の鳥が来ると、羽根を広げて鳴き声を出して追い払う。小さな体でたいしたものだ。稲刈りの時期になると雀の出勤が遅くなる。エサを忘れると鳴いて催促する。

困ったものだと思いながら、日々、雀に癒される高齢者です。

〔機関紙編集委員会〕
【委員長】山﨑　宏子
【委　員】山下　義之　前田　邦子
澤田　勝英　竹内　清
松谷　美優　民田　悦子
中村　耕右　野村　直子
水野　和彦　石川真由美